



どん底の叫び

岡部文夫著

無産者歌人叢書
東京・紅玉堂版

目次

市電全線罷業……………	一
朝鮮の同志よ……………	五
炭坑……………	七
争議團本部……………	一〇
瓦工場……………	一四
煙突掃除夫……………	一七

奉 公 袋……………三
 おはひ船労働者……………二八
 温情主義者をたたきのめせ……………二九
 冬のロハ臺……………三三
 どん底の叫び……………三六
 製 絲 工 場……………四四
 第二×××新聞……………四四
 同志山宣の死……………五一

五 月 祭……………五七
 おそろすいでつけない建物だ……………五五
 瓦斯工人夫……………六六
 浚 漕 船……………七一
 癩 兵……………七七
 自由労働者……………八七
 奉 祝 都 市……………一〇一
 職場がへりは唄でもうとて……………一〇五

○瓦斯工人夫の唄……………	一〇七
○農夫の唄……………	一〇八
○道路人夫の唄……………	一一三
○漁師の唄……………	一二四
○地搗きの唄……………	一二五
○採炭夫の唄……………	一二六
○冷蔵船員の唄……………	一三三
ちよつこし書く……………	一三五

市電全線罷業

兵卒は土百姓の悴さ職工の子さ従業員の
心んなかもよつくわかる筈よ

全従業員のためだ、仲間よ腕を組め！断然
異議なし」おお四谷、本所、深川、従業員の胸か
ら胸へ團結の焰はつつばしる

圓太郎の中から手を突き出して合圖する
女車掌さん「おおわかつとるとも溝さらひ
はスコツパをでけるだけ差しあげた

ごみ人夫から溝さらひまで一萬三千人の
ごつい總罷業さ、見れ！東京の街を泥にし
てやる

おれ達や電車も動かさあ！家も建てらあ
！地掘りもよ！なあ仲間、おれたらだけの
世も建てようぞ

最後の指令が発せられたぞ、おとおれ達
は唯團結！團結！仲間のためならなあ死ん
でも

朝鮮の同志よ！

留置場

あいがう。あいがう！。ううん。ん。あ
ああ！。おいあのうめき！聞いちやをれ
ねいじゃないか、朝鮮の同志よ！すまね
えなあ！我慢してくれろよ

鼻血は流れ、毛髪は引きちぎられ、腕の
皮はむかれ朝鮮の仲間には氣絶して抛り込
まれてきた

炭坑

あッ落盤だ坑夫はへし飛ばされトロツコ
はぐねぐねした坑道を突つばしり、石炭
瓦斯は横坑から横坑へ、腕を折られた坑
夫が坑木かうぼくにしがみついた

み、水をくれ！胸が、おお片足を引きち
ぎられた坑夫が燃えひろがる石炭瓦斯の
なかにのたうつた

蒸したての大福のやうにべとべと肉がく
つつくのだ仲間の身體は手もつけられね
いぜ

天井からぼたぼた落ちる雫がぶんの窪で
氷りつくのだ千二百尺の横坑じや五分間
も我慢出来ねいよ

鑿岩機、切羽にぶつ立てれやうづらづ汗が
目にはいりやがるんだ、笑ひごつちやねい
が頭の安全燈が怪物のやうに見えるのさ

爭議團本部

ベルトに捲かれた職工の骨盤はひき潰され石綿せきめんのやう輪轉機にこびりついた

機械が一日空からあきになることがなんだ人間がはさまれてるのに、あッ！蓄生まだとめやがらねい

ベルトからしたたる血糊ちのりはぼとぼと輪轉機を染め天井の鐵骨に血しぶきをあげる

とめるんだッ蓄生！指のない職工が職工
長を押しつけてぎりぎりスキッチに喰ひ
ついた

硝子は破れ、椅子は飛び社長室に雪崩なだれた×
×と職工代表、あッ白×！ドアにへばりつ
いて息をころす職工、肩あげの女工

がたがたの机に兩腕を突つ張つて演説す
るお藤さ！おらあ惚れたぞッ、うしろか
ら怒鳴る職工！

長いこつだつたが勝つたよおつかあ！さ
あ赤飯でもたいて祝はふぜ！大根の輪わん
切きものおおたのんだぜ

瓦工場

おいらは瓦場の土踏み、朝つばらから晩
まででつかいこん足で踏んにぢるんだよ
赤土あかつちを

摩羅にまではねあがるんだよ赤土が、ぐ
んぐん踏んにぢるんだよ、でつかいこん
足で

あかぎれのはぜたでつかいこん足は土を
踏んだけだらうかよ、赤土を踏んだけだ
らうかよ

おおよおいらのこん足は赤土踏んだけだ
らうかよ奴等の地盤も踏んにぢらうよ

16

でつかいこん足は奴等の地盤ふんにぢる
だけだらうかよ。おいらの土臺も煉り固
めうよ

煙突掃除夫

地上百二十尺の煙突中だ、ここじやサ
ーベルの手もとどくまいつて

17

仲間は囃　おらあ音頭取りだ、
××歌は
頭ん高の青空へつん抜ける

面と手をまつ黒にして上つてくれや夕方
だい、眼と齒が光つてゐらあな

女工さん黒ン坊がおかしいかい、青瓢箪
と黒ン坊で××をつくり返して見せよ
うぜ

瓢箪と黒ン坊だけじゃ足んねいだ、なあ
脚のねい人間様もあるこつだ

おーい用心しろよ兄弟^{いっせ}踏みすべらしたら
實柘榴だ、びた一文くれるんじやねいし
さ、なあ！

仲間の血を搾り抜いでくべた石炭だ、こ
の煤のたまりやうつたら蓄生！

俺達^{おれら}あ休めや煙突あ尻^{しつ}つまりだ、金やあ
つてもこれだけやどうにもなんねいだ

奉 × 袋

××やちうて一日休めや食へねいおちたつ掩達だ
い、晝飯だけでも出してくんろよ！

いざとなればあ××さひつばる腹なんだい、
二年間使ひばなされてまだ奉公かい

二年間使ひばなされた揚句が失業だい、
××が聞いてあきれるぜ

××袋にかつつめられた赤いビラ査閲官
の前でみんな×かれた

ビラ撒くなあ、あたり前だい、生活の保
證もしねい奉公なんか、まつびらだい

いが栗頭の上に吹き撒る赤いビラ、抜け
目のねい彼奴あいつのこつだ××袋につめてる
やがる

ビラつめるにや××袋がもつてこいだで、
すばしこい奴だ、彼奴あいつのやるこつだ

××袋が軍人の魂だとよ、何いつてやがんだい、いつまで奉公しなげやなんねいだ

講堂の×孝の額にびつたり張られた反×ビラだ村長の逃げよつたら見せたかつたよ

俺達いらたつの意気がはじめてわかつたかい、あたふたあはてた村長奴めさまあ見やがれ

駐在の×査は一人だで孝吉！元氣のよいとこたのんだぜお春いさんも見てゐるぜ

おはひ船労働者

壓へれば弾はじき上りさうな肉付きだホホ立
派な肉弾だ俺達の世界が來るときまでの
とつときもんだぜ

温情主義者をたたきのめせ

「酔うてくだまけやアラ、チンチン」と一合
の酒ではや酔つた兄弟だ！てんでこ舞ひ
して踊りくさる

おーい兄弟けうだい！やめろよ、やめろよ。棧敷さんじきで
奴等にたにた笑つてゐるでねいか

一合の酒で俺達をごまかさうつて奴等の
腹なんだ、棧敷さんじきなんかてつくりかへせ！

「酔うてくだまきやチンチンとくらあ」
おーい兄弟けうだい腹の底まで腐らすんじやねい
ぜ！なあ、わかつたか

冬のロハ臺

よう兄弟歸らうぜ、こんなところで寝付い
ちや霜でござえちまわあな

32

フフン歸るつて木賃宿^{もくちんほてる}へか、よかろ！三
里の道をテクつて歸れや女でも待つてゐ
るといふのかい

よせやい！俺達^{おらたつ}あ明日の生活^{くらし}うけあつて
もらはねやなんねいだ！このまま生きち
やをれねいだ！

33

朝の暗がりから馳けづりまはつてあぶれる俺達^{いらたつ}あこんでも人間かい、おい人間かいてんだ

ごみだめへ首突つ込んであるくおらたつが、さうだとも人間様であつてたまるかい

ごみ溜をあさつて魚^{さな}の骨しやぶるおらたつあ蓄生だとも、うう、二本脚の蓄生さ

どん底の叫び

物もいはれないまでに腹がへつたんだ、
仲間は眼ばつか光らせて永代橋にへぼり
ついでる

脚を摺古木にして貰つた××が、今じや
錢ぜんさへ出せやいくらでも買へるんだとよ
お目出度い世ん中さ、なあ

そんな奴等の面なんかひつばたいてやれ、
おらたつの仲間をひいひいひはせるなん
か朝飯前の君、たつた

おらたつの仲間がどう悪いってんだ、な
あ！下積みにされてるおらたつのやるこ
と叫ぶことが、どう悪いてんだ

小便でにちやつく煎餅蒲團で、空つほの
味噌汁でたたきのめされるおらたつの仲
間がどげな悪いことしたらうかよ

電柱から墜^{おち}落した仲間は黒こげだ、頭のと
つべんから足の爪先までべた一面が肉た
だれだ

仲間を抱き起した工夫も感電だ、びんと
そりこばつて死にやがつた、目もあてら
れねいぢやないか蓄生！

おかみさん達、があがあ騒がないで考へ
とくれ！お屋敷にふんぞつてゐる旦那さ
んがいつ黒こげになつたらうかよ

火の氣のねい部屋で古足袋つづくつてゐ
るおつかあ、おらあおめい、が心配でなん
ねいだ

猫背になつて暗いランプの下でおつかあ
縫つてくれたのか、ありがてい、ありが
てい、ほんまにあつたかいよ

木綿片ものんぎれを幾枚もはりつけた古足袋だ お
つかあありがと、あつたかいとも

製絲工場

年中繭をくつてゐる女工の手は職業病に
かかつて眞白にしゃれる

腐つた枇杷のやうにしやれた手の甲だ女
工は夏でも手袋をはめてる

手を出せ！恥づかしがるな！うう、白い
しやれた手をがつちりと組め！さらげ出
せ！

しやれた手を太陽のしたに振り上げろ！
要求書を奴等につきつける

工場主は俺を父と思つて働けといった、

彼奴が父で食ふや食はずの俺達の子か、
こいつあいつ考へもんだで

44

父が立派なお屋敷で子供が公園のロハ台
か、ちつたあ眞面目に考へようぜ

一時間に六口づつの糸粹擔た當たされてぐら
ぐらと目まひにぶつ倒れる女工

45

糸粹にしがみついて倒れる女工よ！なあ
俺達だつて人間だぜ、みくびるない

一日十三時間の腰掛作業を廢めて立作業
にしたことが工場改修だとよ、聞いたか
女工さん

血を吐いて力なく見上げるいくたり人の女工、
立作業が改修と聞いてあきれらあ

町會議戰

青しよびれた手でも役にたつたらと封筒
書きに來た女工もあつたよ

第二×××新聞

皺くちやな一枚の新聞だが五分間の辨當
時間をこんなにも明るくさせる

職場の鐵管の中でセメントだらけの頭を
かちあはせて新聞を読む俺達の新聞第二
××を

「こいつ梅干の皮なんか落としやがつて」
「チツきたねい」「ハハ・」セメントで白
くなつた頭がかち合ふ一枚の新聞に

「うろたへちや駄目だせ！×××がつけ
やがつたぜ」ふところの×新を素早く猿
又へねぢこむ

同志山宣の死

齒ぎしりを嚙んで嚙んで嚙みしめて生×
しにされた同志の棺をもちたてて行く

おごそかな葬式だちうになんだつて××
なんかしやがるんだい

おおさ頑張らうとも犠牲にぶつ倒れた同
志にお経や線香をすへるんぢやねい

死んだ者^{もん}までに××が、がちやがちやつ
いてゐらあ！くそいまいましい

みんながみんな齒ぎしりをかみしめて生
×しにされた同志の棺が黙黙と行く

俺達の手でねむつた同志の死體だ！奴等に指一本ささすんじやねいぜ

死面の鉛板まで割るなんて蓄生！いまい
ましいつたらありやしねい

死面ぢやねいか寫眞ぢやねいか、なあそ
んなことまでつべこべかまつてもろまい
ぜ

中村高一應援演説會

蓄生！うめいぞツ！もう大衆をわきたた
せる山本宣治、おおおいらの山本

そッ、そん通とつだ！ しつかりやれッ山
本ッ！ 會場は拍手に湧きかへり誰の目
にも涙が、涙が光つてる

五月祭

金さへあれあ何でも出来ると思つたら、
このメーカーを喰ひとめて見る

仲間よ下水工事場のどん底から這ひ上つて
奴等の度肝を引き抜いてやれ

犠牲者の××で染めあげた×旗だ芝公園
を真赤に埋めろ

メーデーは俺達の日だ見ろ！女工らの青
萎れた顔にも血氣が一杯だ

聯隊旗を房ばつかりにした君達だ！俺達
の×旗も、おおさあもり立てろ

メーデーは葬式行列じゃねいんだぞ、年
に一度の俺達の日だ

俺達の小さな闘士だ背に眠る子供の背に
も赤い布を巻きつけてやれ

此奴だ！闘士を引き抜かうとする×××
の背後からどつと押し寄せる群衆、黒黒
と

赤旗を押し立て押し立て突破する群集、
何物にもおじけぬ同志が東京で二萬だ

べらべらな××なんかぶつ切つて俺達の
赤旗を押し立ててくれ

俺達と同じ貧乏人なのに××よ！剣の手
前辯士をたたきおろすのか！たたきおろ
すのかよ

デモが押し雪崩れた群集の中に嵐を突い
て突つ立つ頑固な起重機

煉瓦塀にはりつけられた建國會のピラを
仲間ハスコツパでこすつてる。あいつは
愉快な男だよ、器用な男だよ

ええそつくりそのまま検束されてたまる
かつてんだ、どつと××にいがみかかる
群集

ぐづぐづいふなあ面倒だと殺氣立つた群
集から迸り出る×旗の歌　おお月島はお
れたちの島

おそろすいでつけない建物だ

おそろすいでつけない建物だ俺達の血を吸
つて建つた社長の家だ

食へや血つになるトマトにしゃぶりつけ働
く身體にや食堂の飯や足たんめいぞ

左翼劇場をぶつ建てるべいよ

九十九錢たあ高た價かすぎるだで、おらたつ
の手で劇場をぶつ建てるべいよ

稻あ赤うなつても地主づぬすあ知らん顔すとり、
そげな奴あ早うふん縛ばるべい

稻あ不作でも地主づぬすあべしべし年買米とり、
そげな馬だ鹿らくせいこたあ、あんめいぞ

瓦斯工人夫

組織のねい人夫仲間だそれでこそ骨折り
甲斐があるといふもの

68

一筋縄じやゆかねい人夫仲間だ！仕事や
るならばりばりとやれ

69

枝管^{しかん}つなぎにぶつ倒れる俺達だ、瓦斯よ
ぶすぶす眞赤に燃えろ！

中外商業新報爭議

組合員をおつほり出して俺達にいつまでも
も残飯を食はすつもりか

浚 渫 船

がらがらと鎖ちぢまり鋼鐵の浚渫機見る
まにむくすりあがる

運般船引きはなすまいと日焼けた女等さん
口び打つつけて懸命に突つ張る

泥はがつと運般船になだれこみとんび突
つ張る女の張り切つた腕

浚渫機がつくりあがり、とんび口突つ張る女
等の上に泥は吹き散る

兄弟けつていを見殺しにするなと争議はづんびろ
がりに廣がつてゆく

ひつこ抜かれめいと固く手を組んだデモ
だ、奴等を尻目しりめにぐいぐいと押す

どんづまりの家族を餓死させちや恥辱ちじやくだ
す、慰問まいもん差入が山ぬやうだ

猿轡さるわでおらたつを骨抜きにしようてんだ
職場で鍛へた骨ほねつ節ふしだ、そげなことでへ
こたれるかい

猿轡を何百何十何萬枚かけたつておらた
つの胸にたぎつとる火が消せるかい、う
火が消せるかい

親子八人が千軒長屋に鮎詰さ、たまにや
人氣ひきけのねい別荘へでも押しかけたいよ

拳を振りあげたまま中止を喰らつて卒倒
する同志！おおあつい涙がはや聴衆の胸
をつきあげる

癡兵

××なんかもとん通りに返すから指のそ
ろつた脚がほしいよ、なあ父とつあん、石
鹼賣じや食へねい世ん中さ

脚を腐らして野垂れ死んだ癡兵だ！區役
所へかつぎこむに何の遠慮が

好きと勝手に脚を腐らしたんじやねい、
ねいともなあ、癡兵の保證は××でやら
せろ

おらたつあ上等兵になるまに華族様苦勞
知らずに少佐だど

おめい俺達あ靴で蹴られ張り倒されてや
つとこさ上等兵だに華族様たあ違つたも
んだで

馬に乗つて行軍する××長なんか兵卒
の苦勞がわかつてたまるかいや

××長奴一日十五里の耐熱行軍で×んだ
同志を美しくしい死だとおだててやがる

戦×したもおんなじ名譽だと、ふふん軍
醫さんおだてるにも程らいがあまりまさあ

夫の××に抱きついて泣きわめく妻子を
××長奴馬の上からもつともらしく見て
みるぞ、村の衆や小面憎いとは思はんかい

誰もがいやなんだ！××検査に梅毒患者
が殖ゑた！おおよ誰が親見捨てて××な
んかへ行かれうかよ

梅毒よりも合格が怖いんだと××官の前
にどなりつけてやれ！やれとも、おおさ
やれとも

雪崩れる群集の唯もが萬歳を叫ばぬ同志
入營のブラットホームだ

いつせいに腕つ節せう高く振りあげてしつか
りやれと怒濤のごとく

萬歳を叫ばねど俺達の胸にこみあげる涙
を！涙を！きつと同志よ忘れないでくれ

幾萬の血で洗はれた満洲だ奴等のたぐら
みをひんむいてやれ！やれとも

營庭にかつつまつた學生檢閲式、列外の
兵士の淋しい顔を見逃すまいぞ

小ぢやな、無心な、子供のふところの中
までしらべたてて 嚴かな××式がいと
も莊大にか、ふふん笑はせやがら

××神社春期大祭

親を野垂れ死させてまで出征した君達だ
一撥拾圓の花火はうれしくあるまい、う
れしくあるまいとも、あたりまへだい

この上まだ國に××を盡せといふ上官の
言葉を除隊兵よ今だ！怒鳴りかへしてや
れ、たたきつけてやれ

自由労働者

泥だらけで工事場からづりあがれや明日
にや明日の心配がチヨツ、湯でもはいりて
いがあぶれりや食へねいおれ達のこつだ
五錢でもなあお前

無産者新聞を買ふ俺を賣子は晴晴と見上げ
げる

じろりあたりをたしかめたおつかあは素
早く炭箱たんばこから無新を抜き出してくる

區劃整理に家を追ん出されて泣いてる仲
間があるのに奴等広い道にたつたつと自
動車を乗りまはす

茶一つ菓子一つ出ない集會だが鋭い言葉
が俺等の間につつばしる

暗い露地裏にヒュガルボンプのベルトが
冷たく光りひたひたと廻はる

抗^{しき}内で歴殺された血みどろな仲間を捨猫
のやうに醫者がひつぱり出してくる

どつしりとしたルウラーは仲間をのせて
軟弱な東京の土地を踏み固める

喰つて行けない正月なんかすつとんでし
まへだ仲間は大きな聲で氣焰をあげる

虱つぶしに監獄へぶつこまふとも。なに、
仲間のうしろには俺達がるる

集會所の立關にぬぎすてられたゴム靴は
みんな先が開いて泥だらけだよ

眞直まっすぐに生きようとしてもすぐ根性がひね
くれるといふ、工場に行つてる妹よ！お
おそうだらうとも

一日の血を搾られた生白なましろい女工の群が、
どたどた吐き出されくる

肺病んで一日に何人か死ぬといふ　こん
な立派な工場の中で

申し分のない立派な工場だが女工はみんな
青ざめてるよ

女だてらにストライキなんかしくさつて
つて婆さんなんちうこといはつしやるだ

さんざんばら搾られて、どうしてこれが
婆さんだまつてをられうかよ

お新さどげなことしたちうて警察さしつ
ばられたか婆さん！うすい目でいいから
見てくんろ、なあ見てくんろ

深夜業もつらいのお、骨身にづきづきこ
たへるよ！そらチャルメラがしんみり聞
えらあな

奴等脚氣で動けない仲間を鹽廻しにして
うまく×すんだ、ちやんと知つてるよ、
わかつてるよ

ねてる奴がこんな運動をしやがるから
だ、××は脚氣でうめいてる仲間を引き
づつてつた

刷りあけたニユースを部別けして、ボス
トへ投げこんで、キツとあたりを見廻し
て、そら！いたちのやうにどす黒い闇か
ら闇を突つきる

薬も飲まませんで苦しかつたらうな父あん

！俺達おらたつせん銭なかつたもんでや

ぎりぎり齒ぎしりをして父つあんは死ん
だ唇が紫色にしんでなあ、父つあんの死
態まゝは一生涯おらわすれんぞ

でかなつて組合へはいつてこの腕が節く
れだつて仇かたきの鼻つばしをぐわんとぶんな
ぐつて、なあ父つあん 小ちやても父つ
あんの子さ

どんづまりの俺達に緊縮？チヨツ泥でも
喰らへといふのかい

建國會のピラ

「忠良な××の赤子を失業に泣かしめる
な」フフンなんのかんのといつてゐやが
る

本所公會堂へ集まれもねいもんだ！わつ
ちらの腹あごまかしの演説やそこらでふ
くれねいよ

祭日がなんだつてうれしいんだい休めや
食へない労働者街には×旗を出すな

奉祝都市

夜もろくろく寝ずにひびまで切らしてお
ぼけにためたおつかあの金を町は奉祝費
に搾りとつたんだ

102

早く行かなげやあぶれるのに花電車が通
るんで交通止め食つたんだ、
情なさけねいよ、
なあ俺達にや

103

職場がへりは唄でもうとて

瓦斯工人夫の唄

坂もあがつた さあ一服だ 甲洲街道に
や 灯がついた

管は重いし 日は暮れかかる 甲洲街道
にや 風が出る

四人がかりで 押す瓦斯車 腹もへつた
よ 陽がまはる

農夫の唄

小作百姓と 馬鹿だらにはするな 米のおま
んま、誰やつくる

田圃あ廣ても 地主がゐても 米はひと
りで わきはせぬ

國の寶だ お百姓様と まつりあけては
血を搾る

踏んで踏まれりや
いい穂が實る
麥は
青いよ
さらさらと

秋のお日さん
くるりとまはれや
娘や
呼びにくる
逢ひにくる

稲架いせは高いし
お日さんまはる
稲穂か
みかみ
戀かたる

大八車に
稲穂を積んで
娘や後押あとおし
俺
や梶棒さ

重い稲穂も 娘と二人 なんてつらかる
重かるや

お日さんまはるし 松原長い 麥の笛吹
こ さあお、かよ

鎌を振り振り 田圃路戻れや 娘や呼ん
でる 稲架木の蔭で

子供あ風の子 百姓の子供 小さい時か
ら田圃や畑

鳩にやる豆も 田圃でとれる 八百屋楯
の中にや生^なりはせぬ

米が安うて 稗食ふ百姓 せめてお蠶^こさ
ま丸丸と

蘭が安けれや 娘が賣られ 米が安けれ
や 家納屋が

汗と膏で そだてた稻が 枯れる萎れる
田圃が割れる

稲が枯れうと 萎れうとままよ 地主や
紋付酒飲みまはる

寝てて金とる 地主の野郎は 二百十日
の風より怖い

おわい舟かよ 日本橋とほる 上にやし
ボレか フオードか

にくいあん畜生は 金持地主 そうれみ
なさん 血を搾る

乳を搾れば 牛でも啼くに まして血じ
やもの 人じやもの

牛は畜生で だまつてをろが おいら人
間 だまつちやをれぬ

二百十日の風より怖い 地主潰せよ み
んなの腕で

搾り搾られ 夜はまた夜なべ 親娘二人
が 機はたを織る

避暑の自動車だ　そらまたくるよ　頸輪、
ビール腹　シボレでくるよ

シボレ自動車が　新開道を走る　牛や車
をよけさせて

お粥^{かいくら}食うて　血を搾られて　青い顔だよ
工場の女工さん

道路人夫の唄

もぐら商賣　俺達人夫　おおさ社会も
掘り返す

にくい監督奴が　がみがみいほと　今に
見ろ見ろ　この鶴嘴で

財政緊縮　何とでもこかせ、　二丈地の中
あ　氷りだよ

氷、　氷も　食ふ氷やいいが　二丈地の中
あ　水鼻氷る

上は粉雪　地下足袋や氷る二丈地の中あ
鶴嘴や立たぬ

漁師の唄

波は寄る寄る ロシヤから ここは日本
海 さんぶりと

124

潰し潰され ぐだけて散ると 波はしつ
こく 寄せてくる

おおよ潰され 碎けて散ると なんでお
いらも へこたれうか

地搦きの唄

汗をぼたぼた 吸ひとる土地に 鐵筋コ
ンクリの家が立つ

125

なんで立たぬか
この棒杭ぼうくわが
頭うてう
てうんと打て

を
力合せて棒杭立てろ
社会改造の
棒杭

ひどい地震や
嵐がこよと
揺れも動き
も
せぬ棒杭を

さつさ立て立て
棒杭立てろ
立てれや
おいらの夜明よあけもちかい

採炭夫の唄

鑛山^{ヤマ}は地獄だ トロツコあ重い 下は千

尺 鑄線路

鑛山^{ヤマ}が崩れや おいらの命 潰し蛙か實

柘榴か

醫者は薄情だ 捨猫 蛙 死んだ坑夫を

戸板にのせて

戸板ぎいぎい 聞えてくれば またかま
たかと女房がのぞく

なんでわめきも さけびもしない 良人おつと
潰され殺されてまで

坑道みちは長いし カンテラ暗い 心細さが
ひしひしと

死んだ坑夫を 麥酒箱びしるの棺で なんで涙
が出るものか

冷蔵船員の唄

赤い手袋 二枚もはめて 船底そに働けや
身体も腐さる

丸い鐵管 氷の棒だ 赤い手袋あばんば
ん棒だ

鮭は冷蔵庫に 腐りもせぬが 耳や手足
が眞赤に腐る

耳や手足が ただれうとままよ 船長あ
鮭さへ保てやよい

波は逆捲く 船あ空^{から}まひだ 船長あおろ
おろ鮭氣にかける

罷業やるなら 今潮時だ 露領尼港が目
の先だ

ちよつこし書く

おらあ歌なんかからつきし駄目なんだ。おらの歌なんか仲
間のためにや何にもなんねいと思ふがおらあ身體弱いんだ。
おらあどげなことしても鶴嘴なんか振れねいんだ。
おらの知らん幾萬の仲間たつ、そげな青しんべの歌なんか
に用ないちうてこの本見捨てんでくれ！ たのんぞ！
おらの知らん幾萬の仲間たつ！ ただの一つでも仲間に感

心されるやうなのあれやおらうれしいんだ！ どれもおらの
眞心ぶちこんであるがいから一つ位はいいのあると思ふと
る。おらあ歌よみなんかになると思はん。おら幾萬のおらた
つの仲間の下積みになれやええんだ。おらまだ若いんだ。ま
だまだ働けると思ふとる。青い腕だがおらも組ましてくれ！
なあ仲間。

X

おらのすらん幾萬の同志たつ。おらあこげな歌を作り出し

たにや譯があるんだ。おら東京へ来てすぐだつたと思ふが富
川町へ行つたんだ。そこじや労働者でいつべいなんだ。灰色
の空が重つ苦しくさがつてる下にトタン屋根のバラツクばか
り並んでる街だ。まつたくハツ被の街なんだ。このごみ臭い
ハツ被の街にやとてもおかしな人間があるんだ。おかしな人
間てえのはちつとも歩けねい人間なんだ。いざりか？ いざ
りじやねい。腹がへつて歩けねいんだ！ 仕事していにも仕
事がねいんだ！ 食へねいんだ！ 象みたい固い腹の皮が萎

びてるんだ。全くよ。

おかしななあんな人間ばつかじやねい。立つてる人間だつてさうだ。みんなうろろよろけてゐるんだ。營養不良で菜つ葉みてい面してらあ！ そうだとも一圓なにかしの金で生活がでけるかよ！

おらあじき泣きたくなるんだ！ おらあ仲間のことを思ふと涙が出てたまらねいんだ。働いてるものが貧乏なあ働かんが爲じやねい。身から出た錆でも因果應報つてやつでもね

いんだ！ 遊んでて食つてる奴がゐるからだ！ こんな世の中つてえありやしねいぜ！ なあ働いてるものが食へねいで遊んでる者が食へるこけな馬鹿くせいことあねいぜ！

おらのすらん幾萬の同志たつ！ おらももとあ景色の歌、作つてただがふつつりやめたんだ。そげな歌あ遊んで食つてる金持の奴等にたたきつけてやれやええんだもん。おらの歌あ昨年のメーデー記念號に出た「プロレタリア短歌集」てやつ

の中にも入れてあるだがここにや一つもとらねいことにした

X

おらのすらん幾萬の同志たつ！ この歌集あ發禁になるかも分らねいだ。おらたつがほんとのことを叫べば叫ぶほす壓へつけるあいつたつだ。きつと發禁にすると思ふとる。おらたつのこげな運動はどうせ血みどろになるなあ覺悟だが、どけなわけで立派な道の上に立つとる運動をぶつぶすんかそれがくやしいんだ。

140

おらの知らん幾萬の同志たつ！ 又おらのすつとる幾十名の同盟員たつ！

おらあもう何もいへねいんだ。

地球はぐるぐるまはつとる赤い光明！ おお赤い夕焼！

おらたつの世界がそらそこに！ おらのすらん幾萬の同志たつ！ 又おらのすつとる幾十名の同盟員たつ！

141

腕を！ 腕を！ 地殻を突き破つておらたつの腕を！ お腕を！

一九二九、一二、二〇

昭和五年二月一日印刷
 昭和五年二月五日發行

目録進呈

歌集 どん底の叫び

【定價金五十錢】



著者 岡部文夫

合資會社紅玉堂書店代表社員

發行者 印刷者 前田隆一

東京市本郷區森川町一番地

東京市本郷區森川町一番地

發行所 紅玉堂書店

振替東京二〇六六五番



御願ひ

まことに御手数のことと存
 じますが葉書を以つて御住
 所と御姓名を紅玉堂宛に御
 知らせ下さるやうに御願ひ
 します。新刊書の報告や弊
 店の新しい出版状況を御知
 らせたいと存じます。

井上康文編輯 月刊詩集 定價二十錢 送料一錢

現歌壇の權威 短歌雜誌 定價五十錢 送料一錢五厘

二大雜誌 新興歌人 定價二十五錢 送料一錢

◆雜誌見本御入用の方は各郵券十錢をお送り下さい◆

紅玉堂文庫

出版の言葉
 小さくとも纏った
 著作を集めて低廉
 な価格と携帯に至
 便な書物を作りた
 いと思ひました。
 そして得るに従つ
 て續々刊行すると
 いふ方針です。故
 に豫め何が出るに
 いふ豫告をしませ
 ん。追々に此文庫
 の冊数が増んで行
 き、百になり千に
 なつてゆくうちに
 本文庫の眞價が明
 瞭になることと思
 ひます。(紅玉堂主
 人謹白)

啄木歌集 石川啄木著 定價金一圓 送費金六錢

歌の作りやう 窪田空穂著 定價金七十錢 送費金六錢

作歌問答 窪田空穂著 定價金八十錢 送費金六錢

改現代短歌用語辭典 松村英一編 定價金一圓三十錢 送費金八錢

詩けがれた王座 繩田林藏著 定價金五十錢 送費金四錢

自由詩の作り方と鑑賞 井上康文著 定價金一圓 送費金六錢

良寛・元政愚庵選集 野々村修瀛著 定價金五十錢 送費金四錢

啄木の詩と其解説 佐藤寛著 定價金一圓 送費金六錢

詩集
 繩田林藏著

けがれた王座

定價金五十錢
 送費金四錢

「けがれた王座」は一印刷工の十ヶ年
 に亘る苦闘史である。
 「けがれた王座」は日本詩歌界何人も
 發見し得ざりし驚異と戦慄の世界であ
 る。
 「けがれた王座」は日本有数の遊廊文
 藝であり、日本最初の賣娼婦詩篇であ
 る。
 「けがれた王座」は肉の煉獄に呻吟す
 る千萬の女性と棘荆の道に難する男性
 の強き友愛の楔である。
 「けがれた王座」は大膽なる詩風と特
 異なる詩境を以つて鳴る。しかも著者
 の名はあまりに詩壇に有名である。

紅玉堂文庫

出版の言葉
 小さくとも纏った著作を集めて低廉な価格と携帯に便利な書物を作りたいと思ひました。そして得るに従つて續々刊行するといふ方針です。故に豫め何が出るかといふ豫告をしません。追々に此文庫の冊数が増んで行き、百になり千になつてゆくうちに本文庫の眞價が明瞭になることと思ひます。(紅玉堂主人謹白)

現代名歌評釋 松村英一著 定價金五十錢 送費金四錢

明治歌壇概史 尾山篤二郎著 定價金五十錢 送費金四錢

歌はかうして作る 尾山篤二郎著 定價金九十錢 送費金六錢

獨歩詩集 國木田獨歩著 定價金七十錢 送費金六錢

詩集 月夜の牡丹 山村暮鳥著 定價金七十錢 送費金六錢

新訂萬葉集 松村英一校訂 定價金一圓八十錢 送費金十錢

歌と人 石川啄木 西村陽吉著 定價金五十錢 送費金四錢

論集 階級戦の一隅 渡邊順三著 定價金八十錢 送費金六錢

プロレタリア歌人同盟編

プロレタリア歌論集

四六版 二八〇頁・箱入上製美本・定價金一圓三十錢・送料八錢

突如として歌壇に颯風を捲き起したプロレタリア短歌運動の陣營に於ける主要なる論文二十七篇を集めて一巻としたもので、プロレタリア短歌に関する議論が如何に發展したかを知るには最も適當な書である。プロレタリア短歌を肯定する者も否定する者も必ず一讀すべき良書としてお奨めする。

- 執筆者
 伊藤信平 會田 毅 浦野 敬 淺野純一
 井上義雄 坪野哲久 渡邊順三 田邊駿一
 岡部文天 南 正胤 (順序不同)

發行所

東京市本郷區森川町一
 振替東京二〇六六五番

紅玉堂書店

土から生れた農民の叫び！

口語集

野良に戦ふ

四六新型フレツシュ装幀
定 價 金 七 十 錢
送 費 金 四 錢

問題藝術・傾向藝術が、それ自身として價値の高いものであるか低いものであるかといふことに就ては議論として殘された餘地がある。この集は若き日本の資本主義時代が生んだ一農民の歌士から生れた歌として、かなり問題的、傾向的色彩を多分に含んでゐるが、しかしこれの持つ力は、さういふ事を議論する所を超へてもつと深い所に行つてゐる。所謂膚淺の境を超えてゐる。そこには土への愛着と土の哀しみと、物質文明の呪咀と人類的正義の叫びがある。更に土に育くまれる人間生活の種々相がある。この意味に於てこの集は改めて問題藝術たり得る資格を持つやうになるかと思ふ。

中村孝助 著

口語集

土の歌

四六新型フレツシュ装幀
定 價 金 七 拾 錢
送 費 金 四 錢

山内房吉氏著・柳瀬正夢氏装幀

プロレタの理論と實際

四六版 二六〇頁
箱入上製美本
定 價 金 壹 圓 三 十 錢
送 料 八 錢

この書の内容が、一九二三、四年頃から、一九二八年頃までの日本のプロレタリア文學運動の發展を反映してゐる。讀者はこれに依つてわが國のプロレタリア文學運動が如何にして起り、如何なる闘争を経て今日に至つたかを知らることが出来るだらう。わが國のプロレタリア文學運動は著しい發展を遂げたとはいへ、それが勝利への道には尙幾多の困難が横はつてゐる。しかも刻々成長しつつあるプロレタリアートはあらゆる苦難と障害とを克服するであらう。それは荆棘の道であると同時に輝かしい勝利への道だからである。

本書の讀者が、このことを理解すると共に、この輝かしい勝利への闘争に加はることを期待したい。

發行所

東京市本郷區森川町一
振替東京二〇六六五番

紅玉堂書店

石川啄木の三名著

啄木歌集

三六判上製
二七〇頁
著者筆蹟口繪入
定價金壹圓
送費六錢

石川啄木は新歌壇第二の革命者也。彼は曾て短歌が歩まざりし大膽勇敢なる境地を開拓せり。即ち彼の繊細華麗なる情操を弄ぶを以て短歌の能事とせる長袖者流のチレツタンチズムを蹴破して自己の生活の心早くも一切の束縛より放たれたる新時代青年の痛苦の聲なり。

啄木詩集

三六判上製
二七〇頁
著者肖像筆蹟寫真入
定價金壹圓
送費六錢

啄木は後年一個のテロリストとして激越と焦燥の時代人となつたが、青春時代の華麗な詩篇を繕くとき、そこに我々は、豊かな詞藻に恵まれた、生れ乍らの一詩人を見出すであらう。その時は多様な現實の諸相に夢と憧憬を繰り交ぜた浪漫的色彩を帯びてゐる。本書はその代表作八十餘篇を盛れるもの。諸君の吟誦は讀者を再唱三唱せしめずには措かない。

啄木遺稿

三六判上製
四六〇頁
木下茂氏裝幀
定價金五拾錢
送費金八錢

一啄木遺稿は著者の遺せる唯一の思想的文集にして、巻頭にその有名な社會主義詩「はてしなき議論の後」以下三十五篇の詩と、後年の著者の傾向たりし社會革命家としての理想を語るべき長短十餘篇の思想感情を解む言辭熱烈直情直學考してその思ふところに行くと止めかねし著者の心は行文の間に横溢す。吁、その筆端の何ぞしかく、不平に沸き、何ぞしかく鋭利なる！歌集とともに愛護を賜へ

ホルムスの思ひ出

四六總洋布裝幀
本文三二〇頁
定價一圓五十錢
送費十錢

A・コナン・ドイル作
藤原時三郎全譯
ホルムスの思ひ出

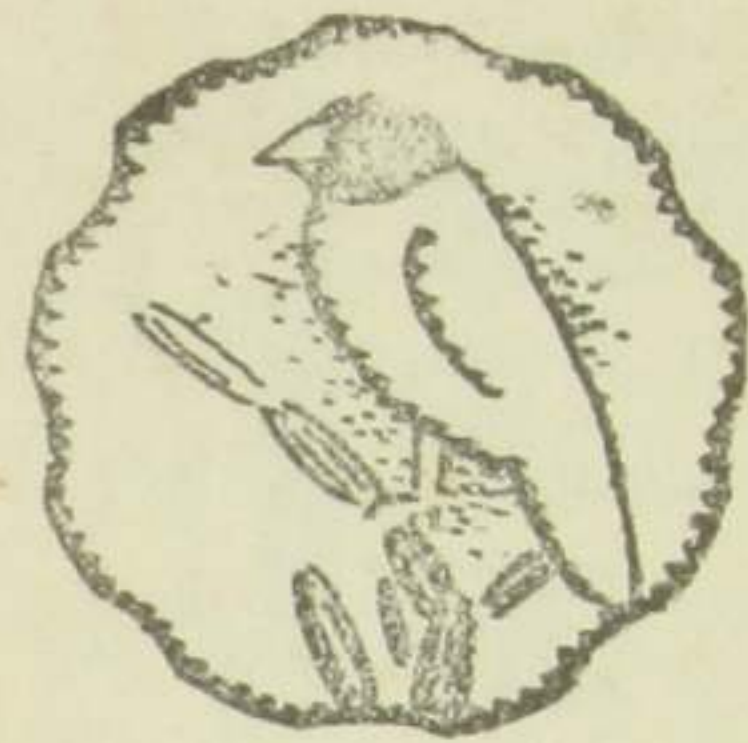
内容
○銀装○質色い襪○仲買店員○グロリア、スコット號○マス
グレイプ家の體式○レイゲートの地主○邪惡の人○家付き患
者○希臘醫官○海軍條約文書○最後の問題

ニユウアラランピアナイト

四六總洋布裝幀
本文四〇〇頁
定價一圓五十錢
送費十錢

R・L・スチフンスン作
近れ人はより多くの部分とより多くのニコチンを要求する。情氣と退屈との外何物も與へない平凡極まる小説や物語に倦怠した近代人は、轉じて本書を讀み給へ、其處に展開された怪奇なロマンスの世界により多くの糖分とより多くのニコチンを見出すであらう。情氣満々たる在來のロマンスの類型を破つて清新な新浪漫派を唱へたス氏の強激的な描寫は讀者を最後の二頁まで掃かせずには置かない。本書は又忠實な全譯であるから原書と對照して讀まれる方の參考書となる。

A・コナン・ドイル作
桃井津根雄譯
スタゲイン・スカアレツト
定價一圓二十錢
送費八錢



紅玉堂。パンフレット贈呈

左記へ住所姓名を御記入の上、紅玉堂書店へ二錢切手封入の上お申込下さい。但し本券一枚に就き一冊。書名の上へ御希望ものに○印をつけて下さい。

書名

住所

新短歌作法

短歌表現の研究

歌書の話

古人名家歌人小傳

歌ごよみ

姓名

(この廣告を切りとつてお送り下さい。)

